

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 9 月 18 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	32.6	106.8 kPa abs	A系： 0.02 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	43.5	4.29 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	42.9	0.23 kPa g	A系： 0.12 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.12 vol%

*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況】

・H25/9/18 8:00 頃 湯気をカメラにて確認(気象データ:気温 21.7℃、湿度 82.9%)。

※プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

10:00 頃 湯気がカメラで確認できないことを確認(気象データ:気温 24.0℃、湿度 58.4%)

※プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	29.0
2号機	循環冷却システム	運転中	25.3
3号機	循環冷却システム	運転中	24.9
4号機	循環冷却システム	運転中	35

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【1号機】・9/12 7:03~9/16 11:10 原子炉建屋1階のガレキ等障害物撤去に向けた事前準備として、撤去作業に干渉する使用済燃料プール冷却設備のケーブルの吊り上げおよび遮へい体の移動に伴い、ケーブル損傷による使用済燃料プール冷却停止リスク回避の観点から、計画的に使用済燃料プール代替冷却系を停止。なお、運転状態については異常が無く、使用済燃料プール温度は冷却停止時の 27.5℃から 32.0℃まで上昇したが、運転上の制限値 60℃に対して余裕があり、プール水温管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/17 10:37 ~ 移送実施中

7/16 13:00~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (9/18 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	停止中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/8/8 12:55～ 6/15 に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。
再発防止対策を実施した上で、C系9月下旬、A系10月中旬、B系11月以降を目処にホット試験を再開予定。
- ・H25/9/19～ 多核種除去設備C系において、コールド試験に向けた系統水張りを開始予定。
- ・H25/9/12～9/24(予定) セシウム吸着装置において、処理水タンクの腐食防止のための信頼性向上工事を実施中。

<5. その他>

- ・H25/9/17 13:15 頃 純水ろ過水設備の原水地下タンクから水(坂下ダムより受け入れている淡水)が溢れていることを当社社員が発見。溢れた水は付近の排水溝へ流れており、当該タンク受け入れ配管の弁を閉としたことで溢水は停止。その後、純水ろ過水設備の原水地下タンクに異常がないこと、および原子炉注水設備を含む他の設備に異常がないことを確認。
当該原水の至近の放射能分析結果(9/10 採取)は、検出限界値未満。
・検出限界値:セシウム $134:6.5 \times 10^{-4} \text{ Bq/cm}^3$ 、セシウム $137:7.5 \times 10^{-4} \text{ Bq/cm}^3$
原因を調査したところ、当社社員が坂下ダム水を原水地下タンクへ受け入れるため当該タンク入口弁(手動弁)を開とした後、他の作業を行っていたために制御盤による水位監視がおろそかになってしまったことで当該タンクが満水となり、溢水したことが判明。なお、溢水した量は約 20m^3 と推定。
- ・H25/9/17 7:30 6号機については、安全性向上のため原子炉内に装荷されている燃料集合体を使用済燃料プールへ移動させ、一括管理することとしており、原子炉開放作業(原子炉压力容器上蓋等の開放)および燃料移動に必要な設備(原子炉建屋天井クレーン、燃料取扱装置、使用済燃料プール等)の点検等の準備を進めてきた。それらの準備が整ったことから、原子炉開放作業を開始。今後、約1ヶ月程度をかけて原子炉の開放作業を実施後、10月下旬頃より燃料集合体を原子炉内から使用済燃料プールへ移動予定。
- ・H25/9/18 1、2号機排気筒耐震安全性評価のために現場調査を行っていたが、当該排気筒の鋼材(斜材)に破断や破断らしき箇所、さびなどの損傷があることを確認。当該排気筒エリアには高線量率箇所があることから、今後、詳細調査方法等の検討を行ったうえで調査を開始する予定。なお、当該排気筒は、現在使用していません。また、プラントデータ(原子炉压力容器底部温度、格納容器内温度等)の異常、モニタリングポスト指示値に有意な変動は確認されていない。
- ・H25/9/19～ 2号機サプレッションチェンバ(S/C)内の水位測定についてロボットによる実証試験を開始予定。
- ・H25/9/19 1号機原子炉建屋機器ハッチ周りの建屋躯体調査を実施予定。

【H4エリアタンクからの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・9/13～16 漏えいの確認されたH4エリア I グループ No.5タンクを解体、調査するため、作業エリアを確保する観点から、先行してH4エリア I グループ No.10 タンクを解体。
- 9/17 漏えいの確認されたH4エリア I グループ No.5タンクの解体を開始。

<最新のパトロール実績(9/17)>

- ・高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線($70 \mu\text{m}$ 線量当量率))は確認されず。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・E-1観測孔:9/16 採取のトリチウム分析結果は $95,000\text{Bq/L}$ であり、9/15 採取時の値($140,000\text{Bq/L}$)と比べ、低下。
- ・E-4観測孔:9/16 採取のトリチウム分析結果は 430Bq/L であり、9/15 採取時の値[検出限界値未満(検出限界値: 120Bq/L)]と比べ、高くなっているため、継続して監視していく。
- ・地下水バイパス揚水井No.5、No.6:新たに分析を開始した9/17 採取の全ベータ分析結果は検出限界値未満(検出限界値: 15Bq/L)。

<排水路・南放水口のサンプリング実績>

・特記事項なし。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<トピックス>

・H25/9/2～ 2・3号機海水配管トレンチ内の高濃度汚染水の放射能濃度を低減するため、モバイル式処理装置の設置工事を開始。

・H25/9/7 12:49 ウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水の移送先を2号機タービン建屋から2号機立坑Cへ切替を実施。9/7 13:01～13:03 2号機立坑B水について2号機タービン建屋への移送し、全ての移送が終了。その後、13:33、ウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水の移送先を2号機立坑Cから2号機タービン建屋へ切替を実施。

【移送量*： 9/18 0:00 時点までの立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は約 2,076m³。】

*集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

・特記事項なし。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中(特記事項なし)。

以上